

西中学校区の特性について

平成 22 年 9 月 27 日 公共施設再配置計画担当作成

1 土地

西地区の面積は、本市の面積の約 18.2%を占めるが、そのうち約 71.2%は、丹沢大山国定公園や渋沢丘陵を含む市街化調整区域であり、市街化区域の面積は、542.3ha(本市の市街化区域の約 22.3%)である。

さらに、市街化区域のうち約 13.8%に当たる 74.9ha が工業専用地域であり、実質人口が集中している面積は 467.4ha となる。また、内訳を見ると、住居系の用途地域の占める割合が高く、工業系の用途の占める割合が低くなっている。

ただし、西地区は、小田急線を境にほぼ北側が西中学校区(地区面積の約 62.2%)、南側が渋沢中学校区(地区面積の 37.8%)となっている。工業系の用途地域の全部と、商業系の用途地域の大半が西中学校区に位置していることから、両中学校区の特色としては、西中学校区は、産業を中心として早くから栄えた街、渋沢中学校区については、ベッドタウンとして住宅地が発達した街ということがいえる。

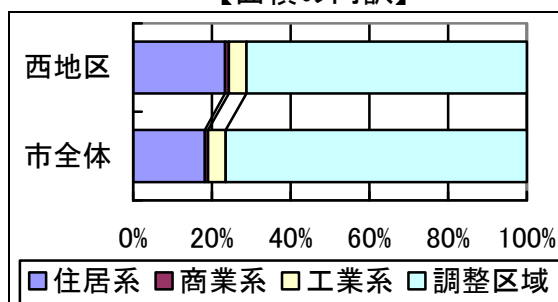
西公民館の敷地は、第一種住居、西中学校の敷地は、国道 246 号から 50mまでが第二種住居、それ以外が第一種住居ですべて容積率 60%、建ぺい率 200%である。

【西地区の土地利用】

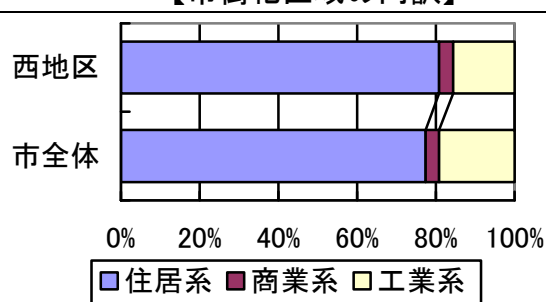
	面積 (ha)	計	市街化区域			市街化 調整区域
			住居系	商業系	工業系	
西地区	1,883.7	542.3	438.1	19.7	84.5	1,341.4
	(18.2%)	(22.3%)	(23.2%)	(24.0%)	(18.0%)	(16.9%)
	[100.0%]	[28.8%]	[23.3%]	[1.0%]	[4.5%]	[71.2%]
		[100.0%]	[80.8%]	[3.6%]	[15.6%]	
西中学校区	1,171.1 [62.2%]					
渋沢中学校区	712.6 [37.8%]					
秦野市合計	10,361.0	2,437.2	1,886.6	82.1	468.5	7,923.8
	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)
	[100.0%]	[23.5%]	[18.2%]	[0.8%]	[4.5%]	[76.5%]
		[100.0%]	[77.4%]	[3.4%]	[19.2%]	

() : 秦野市の合計値に対する割合 [] : 構成比

【面積の内訳】



【市街化区域の内訳】



2 人口

西地区では、本市の人口増加に合わせ、昭和 40 年代から 50 年代にかけて大きく人口が増えたが、平成に入り人口増加率は本市の増加率を下回り始め、市の人口減少が始まるよりも早い時期に減少が始まり、今後も市の減少率を上回る人口減少が起こると推計されている。

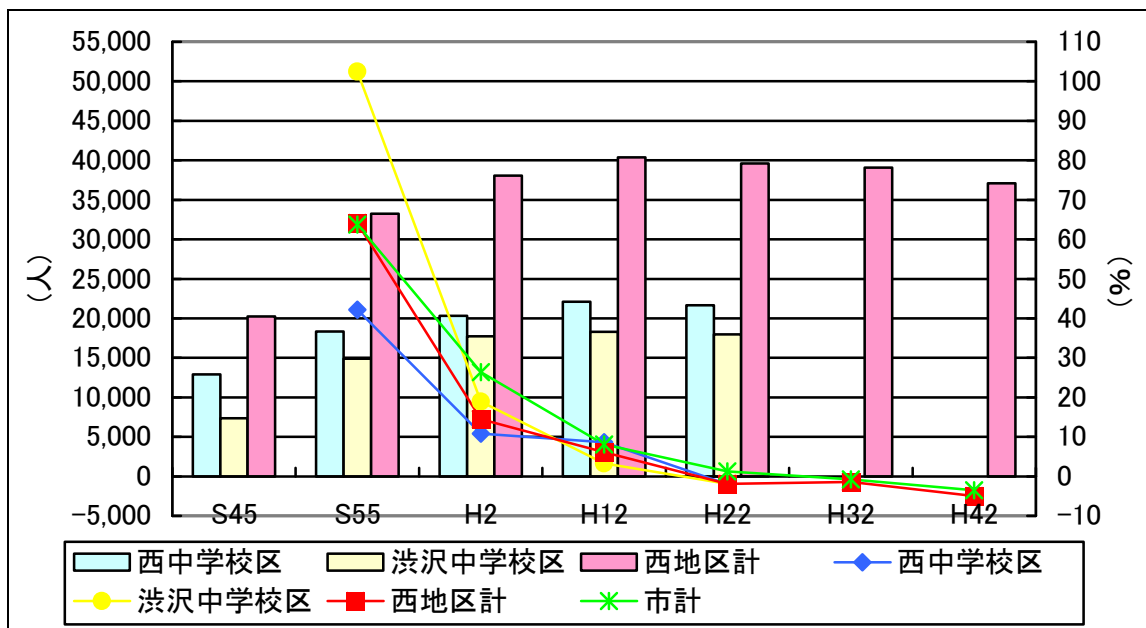
また、二つの中学校区別に見ると、西中学校区では、本市の人口の増加率を常に下回り、古くからの既成市街地が多かったことがわかる。また、渋沢中学校区では、昭和 40 年代から 50 年代にかけて市の人口増加率を大きく上回り、ベッドタウンとしての開発が進んだことがわかる。しかし、両中学校区ともに、平成になってからの増加率は、市全体の増加率を下回っている。

【西地区の人口の推移】

(人口：人)

	S45・10・1	S55・10・1	H2・10・1	H12・10・1	H22・8・1	H32(推計)	H42(推計)
西地区	20,258 (26.9%) [64.1%]	33,244 (27.0%) [64.1%]	38,056 (24.5%) [14.5%]	40,391 (24.0%) [6.1%]	39,608 (23.3%) [△1.9%]	39,068 (23.1%) [△1.4%]	37,098 (22.7%) [△5.0%]
西中学校区	12,901 (17.1%) [42.2%]	18,346 (14.9%) [42.2%]	20,336 (13.1%) [10.8%]	22,094 (13.1%) [8.6%]	21,650 (12.7%) [△2.0%]		
渋沢中学校区	7,357 (9.8%) [102.5%]	14,898 (12.1%) [102.5%]	17,720 (11.4%) [18.9%]	18,297 (10.9%) [3.3%]	17,958 (10.5%) [△1.9%]		
秦野市合計	75,226 (100.0%) [63.7%]	123,130 (100.0%) [63.7%]	155,620 (100.0%) [26.4%]	168,185 (100.0%) [8.1%]	170,341 (100.0%) [1.3%]	169,028 (100.0%) [△0.8%]	163,089 (100.0%) [△3.5%]

() : 秦野市の合計値に対する割合 [] : 対 10 年前増加率



10 年後の推計を比較すると、年少人口は市全体を上回る減少となるが、高齢者人口の増加は、市全体の増加率を下回る。また、10 年後から 20 年後を比較すると、年少人口の減少率は市全体を下回るが、生産年齢人口の減少率が市全体を上回る。

また、この先 20 年間では、年少人口、生産年齢人口の減少率は市全体を上回り、高齢者の増加率は下回る。よって、市全体よりも大きな人口減少が起きる。

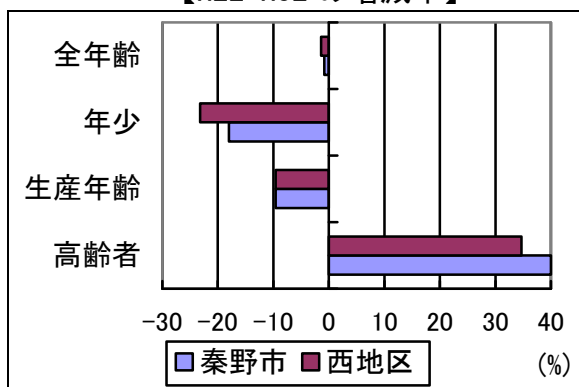
【西地区の人口構成】

(人口：人)

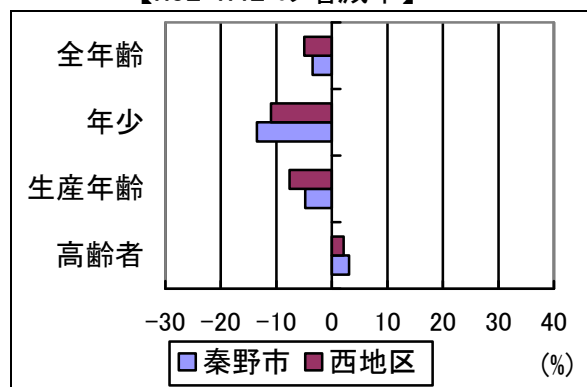
		H22(推計)	H32(推計)	H42(推計)
全年齢合計	西地区	39,608 (23.3%) [△1.9%]	39,068 (23.1%) [△1.4%]	37,098 (22.7%) [△5.0%] 《△6.3%》
	秦野市合計	170,341 (100.0%) [1.3%]	169,028 (100.0%) [△0.8%]	163,089 (100.0%) [△3.5%] 《△4.3%》
年少人口	西地区	5,106 (24.1%)	3,920 (22.6%) [△23.2%]	3,489 (23.2%) [△11.0%] 《△31.7%》
	秦野市合計	21,159 (100.0%)	17,354 (100.0%) [△18.0%]	15,018 (100.0%) [△13.5%] 《△29.0%》
生産年齢人口	西地区	26,049 (22.5%)	23,543 (22.5%) [△9.6%]	21,757 (21.9%) [△7.6%] 《△16.5%》
	秦野市合計	115,570 (100.0%)	104,489 (100.0%) [△9.6%]	99,424 (100.0%) [△4.8%] 《△14.0%》
高齢者人口	西地区	8,613 (25.6%)	11,605 (24.6%) [34.7%]	11,852 (24.4%) [2.1%] 《37.6%》
	秦野市合計	33,697 (100.0%)	47,185 (100.0%) [40.0%]	48,647 (100.0%) [3.1%] 《44.4%》

() : 秦野市の合計値に対する割合 [] : 対 10 年前増加率 《 》 : 対 20 年前増加率

【H22-H32 の増減率】

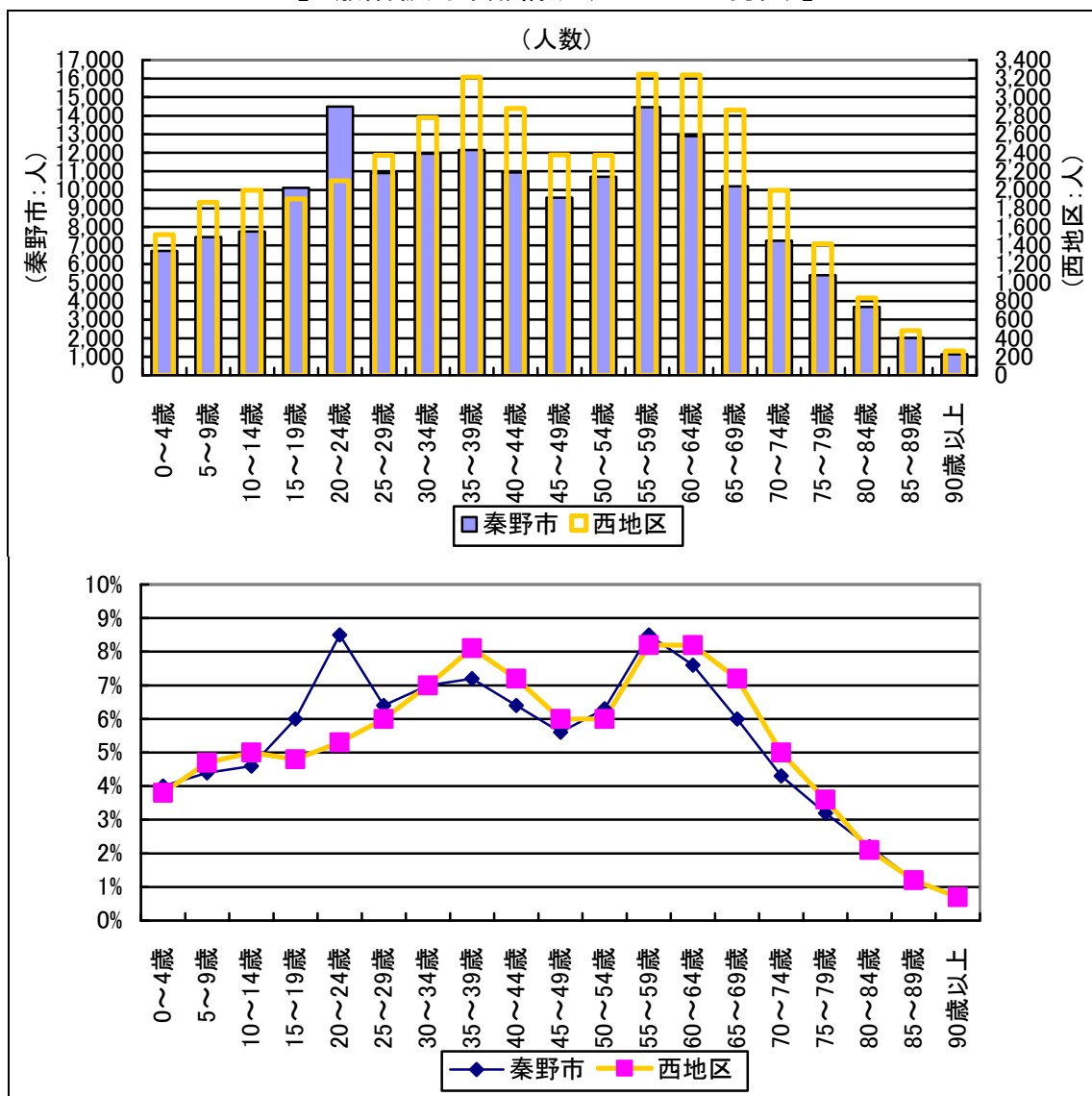


【H32-H42 の増減率】



現在の 5 歳階級別年齢の構成を見ると、15 歳から 29 歳の人口の構成比が市全体の割合より低くなり、5 歳から 14 歳、35 歳から 49 歳、及び 60 歳から 79 歳で構成比が市全体の割合より高くなっている。

【5 歳階級別年齢構成 (H20・10・1 現在)】



これらのことからそれぞれの学区の特徴を推測すると、西中学校区は、今は工場群に勤務する働きざかりの世代とその子どもの世帯が多いが、今後子どもたちは成長に伴い流出し、親の世代は高齢者世代に移っていく。

また、渋沢中学校区内は、ベッドタウンの開発に伴い越してきた世代が、既にそのまま高齢化していることに加え、人口の流入も起きないことから、今後 20 年では人口の自然減が大きくなるといえる。

なお、西中学校を中心とした半径 400 メートル圏内の人口は推定 3,500 人、800 メートル圏内では、推定 12,000 人である(ただし小田急線より北側)。

3 交通

(1) 地区内の交通の概況

西地区における交通は、昭和 2 年に開業した小田急線が東西に走り、地区を北側の西中学校区と南側の渋沢中学校区に分け、渋沢駅は、西中学校から直線距離で 400 メートル強の位置にある。駅には、北口と南口があるが、北口の整備が完了したのは平成になってからである。しかし、南側は渋沢丘陵が迫ってきていることから平地が少ないことや、昭和 40 年代に工場群が北側に誘致されたことなどから、古くから栄えていたのは、駅の北側のエリアである。

また、小田急線と並行するように国道 246 号が東西に走り、西中学校の敷地にも接している。渋沢駅の北口からは、地区内で最も広い道路である渋沢駅前落合線が北に延び、国道 246 号、県道 706 号と交差している。小田急線より北側(西中学校区)の都市計画道路整備はほぼ完了しているが、南側(渋沢中学校区)は、国道 246 号バイパスのインターチェンジ(未着工)との接続の問題などもあり、駅周辺の一部を除いては、未着工である。

(2) 施設周辺の道路

西中学校(西公民館を含む一団の敷地)は、周囲の 4 面すべてが公道に接している。

まず北側は、国道 246 号であり、通過交通量は、午前 6 時から午後 7 時までの 13 時間で上下合わせて約 17,800 台、ピーク時(午前 9 時からの 1 時間)に約 1,500 台である(H20・2・7 調査)。

また、東側は、市道 15 号線に接し、通過交通量は、午前 6 時から午後 7 時までの 13 時間で上下合わせて約 4,700 台、ピーク時(午前 9 時からの 1 時間)に約 500 台である(H20・2・7 調査)。

そして、南側と西側は、それぞれ市道 867 号線と 858 号線に接している。どちらも車両の相互通行可能な幅員をもつが、国道、県道とは異なり生活道路の性格を持っている(通過交通量不明)。

(3) 渋沢駅

最寄り駅の渋沢駅までは、徒歩約 6 分程度である。

渋沢駅は、市内の 4 つの駅の中で最も西に位置し、新宿から急行で約 75 分である。新宿寄りの隣駅は秦野駅で約 5 分、小田原寄りの隣駅は新松田駅で約 10 分の距離がある。

渋沢駅は、平日は堀山下工場群への通勤客、休日は、表丹沢大倉尾根の玄関口として、登山客の利用も多いが、一日当たりの乗降客は、ともに約 14,000 人であり(平成 20 年度実績)、市内 4 駅の中では、秦野駅、東海大学前駅に次いで、3 番目の数となる。